ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：隅田　学
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2023.12.15
NO.265

科学教育研究レター

目　次

■ **選挙管理委員会だより** ……2
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

■ **理事会だより** ……3
第 305 回理事会報告

■ **学会賞** ……6
第 47 回年会発表賞の決定

■ **年会** ……7
第 48 回年会開催案内（第 2 次）

■ **支部・研究会だより** ……8
2023 年度研究会開催のお知らせ

■ **国際交流委員会だより** ……11
2023 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）開催報告
国際学会参加報告(70) World Association of Lesson Studies 2023（WALS2023）
国際学会開催情報

■ **若手活性化委員会だより** ……16
2023 年日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）概要報告
若手研究者，「初心」を語る

■ **編集委員会だより** ……20
2023 年度第 1 回編集理事会報告
特集のお知らせ（再掲）
「科学教育研究」編集状況報告

■ **広報委員会からのお知らせ** ……26

選挙管理委員会だより

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

代議員選挙管理委員会　委員長　雲財　寛
役員選挙管理委員会　委員長　竹中真希子

一般社団法人日本科学教育学会では，次年度（2024 年 7 月 1 日～）以降の役員候補および代議員候補の選挙を実施します．

新役員選挙では，理事および監事を選出します．2026 年まで任期のある役員はそのまま役員候補となり，役員 14 名（理事 13 名，監事 1 名）を選出します．代議員選挙では，代議員 20 名を選出します．代議員は会員の代表として総会で議決権を行使します．そのため，年齢，性別，専門，地域などで偏りのない幅広い層から選ばれることが重要です．学生・若手からの立候補・推薦も大いに歓迎します．

2024 年 1 月末頃に，皆様のお手元に２つの選挙の候補者推薦に関する会告を発送いたします．お手元に届きましたら，ご一読いただき，相応しい候補を推薦（代議員については立候補も可）いただきますよう，よろしくお願いいたします．なお，今回の選挙より，新しい会員管理システムを導入予定です．ログイン方法等に関する情報は上記会告と一緒に郵送しますので必ずご確認ください．

日本科学教育学会第 305 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日　時　　2023 年 11 月 11 日（土）14：00〜16:00
会　場　　ネット会議
出席者　　会長　隅田学，副会長 清水美憲，竹中真希子
理事　加藤久恵，松原憲治，松浦拓也，山口悦司，三宅志穂，辻宏子，雲財寛，稲田結美，秋田美代，山下修一，土佐幸子，瀬戸崎典夫，大谷忠，舟橋友香
監事　猿田祐嗣，稲垣成哲
事務局長 益子典文
幹事　山本容子，塩澤友樹

１．議事要録(案)の承認
○第 304 回理事会議事録(案)を承認した．

２．第 305 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果
○事務局からの発議により，23/9/30 までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2023 年 10 月 3 日）．
○事務局からの発議により，23/10/31 までに入会を希望した 10 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2023 年 11 月 2 日）．

３．報告事項
1）庶務・事務局
○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応について報告があった．

2）機関誌編集
○EBSCOhost 契約に向けた弁護士相談について報告があった．
○機関誌の編集状況及び特集号について報告があった．

3）学会賞
○年会発表賞候補の推薦にかかわる投票の集計結果について報告があった．

4）支部・研究会
○2023 年度第 1 回研究会国際交流委員会開催の開催報告があった．

5）調査研究・学術交流・男女共同参画ワーキング

○男女共同参画学協会連絡会 女性比率調査の回答に関する報告があった.

6）国際交流

○第 47 回年会における国際ランチョン・ミーティングの開催状況について報告があった.

○2023 年度第 1 回研究会（JSSE 英語による研究会）の開催状況について報告があった.

7）年会企画

○第 47 回年会（愛媛大学）の会計報告があった.

○第 48 回年会（函館大会）の準備状況について報告があった.

8）広報・学会 IT 化

・科学教育研究レターNo.265 の発行について報告があった.

9）若手活性化

○第 47 回年会における若手活性化委員会企画の実施状況について報告があった.

○2023 年度第 2 回研究会（若手活性化委員会開催）の準備状況について報告があった.

○レターにおける新コーナーの設置について報告があった.

託児サービス実施に係わる料金について報告があった.

10)その他

○50 周年企画準備 WG の活動状況について報告があった.

４．協議事項

1）経理・会員

○退会希望者 0 名の説明があり，現在の会員数について確認された.

現在会員数：1369 名（正会員 1182 名，学生会員 106 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，賛助会員 3 名，シニア会員 55 名）（2023 年 10 月 27 日付）

前回会員数：1403 名（正会員 1192 名，学生会員 130 名，名誉会員 21 名，公共会員 2 名，賛助会員 3 名，シニア会員 55 名）（2023 年 9 月 12 日付）

2）機関誌編集

○EBSCOhost との契約について説明があり承認された.

3）学会賞

○第 47 回年会発表賞候補について，以下の 3 件を承認した.

・「Arts-Based Research:芸術に基づく探究過程と学習モデルの検討」手塚千尋（明治学院大学）

・「中国の物理課程標準の変容と物理核心素養の導入」岡田寛明（広島大学大学院），張峪霖（広島大学大学院），高駿業（広島大学大学院），磯﨑哲夫（広島大学大学院人間社会科学研究科）

・「Neurodiversity のある人のための博物館展示モデル」鳥居深雪（関西国際大学）

4）年会企画

〇第 49 回年会を広島大学で開催されることについて説明があり承認された.

5）若手活性化

〇若手活性化委員会内規の改訂について説明があり承認された.

6）会長

〇選挙管理委員会の設置について説明があり承認された.

〇代議員の改選数及び役員の改選数ついて説明があり承認された.

５．次回以降の理事会予定

・第 306 回:2024 年 3 月 16 日（土）14:00〜17:00 場所: ネット会議

・第 307 回:2024 年 6 月 15 日（土）14:00〜17:00 場所: 株式会社内田洋行 新川第２オフィス

・第 308 回:日時未定 場所: ネット会議

・第 309 回:2024 年 9 月 13 日（金）時間未定 場所: 函館工業高等専門学校

・第 310 回:2024 年 9 月 15 日（日）時間未定 場所: 函館工業高等専門学校

第 47 回　年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では，第 47 回年会発表賞について，会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね，候補者の選考を進めてまいりました.2023（令和 5）年 11 月 11 日に開催された第 305 回理事会の議を経て，下記 3 件が 2023 年度年会発表賞に選ばれました.誠におめでとうございます.「＊」は現在非会員の方ですが，2024 年 2 月末までに入会された場合は受賞対象となります.

発表者：＊手塚千尋（明治学院大学）
発表論文：Arts-Based Research:芸術に基づく探究過程と学習モデルの検討，日本科学教育学会第 47 回年会論文集，253-254，2023
選定理由：STEAM における Arts への取り組みを検討している内容がユニークである.単なる内容統合ではなく，文脈統合としての Arts の役割を明確にしており，新規性のみならず応用可能性が高い.

発表者：岡田寛明（広島大学大学院），＊張峪霖（広島大学大学院），高駿業（広島大学大学院），磯﨑哲夫（広島大学大学院）
発表論文：中国の物理課程標準の変容と物理核心素養の導入，日本科学教育学会第 47 回年会論文集，561-562，2023
選定理由：中国を事例として最新の科学教育カリキュラムをコンピテンシーベースの観点から分析している.国際共同研究としても評価できる.

発表者：＊鳥居深雪（関西国際大学）
発表論文：Neurodiversity のある人のための博物館展示モデル，日本科学教育学会第 47 回年会論文集，55-56，2023
選定理由:ニューロダイバシティの現状と博物館展示における対応モデルの可能性と課題についてスウェーデンの事例に基づいて明確に提示している.今後のインクルーシブな社会にとって科学教育の側面から取り組むべき観点が示唆されている.

第 48 回年会 開催案内（第 2 次）

1．日程：2024 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）（3 日間を予定）

2．会場：函館工業高等専門学校
（〒042-0953 北海道函館市戸倉町 14-1）
https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/access/

3．スケジュール概要（予定）
13 日（金） 午後：研究発表　理事会（改選前）　顧問・理事・支部長・代議員合同会議
14 日（土） 午前：研究発表　招待講演
午後：代議員総会・表彰　シンポジウム
15 日（日） 午前：研究発表
午後：理事会（改選後）　研究発表（申し込み状況により設定）
＊その他，各委員会による企画，各委員会の会合等があります．

4．発表申込等について
研究発表（課題研究発表，一般研究発表，インタラクティブセッション）の申込・原稿提出のスケジュールは，次号『科学教育研究レター』等でお知らせします．

5．連絡先：日本科学教育学会第 48 回年会実行委員会
E-mail：jssehakodate48 [at mark] gmail.com

6．第 48 回年会実行委員会
委 員 長　下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

7．年会企画委員会
委 員 長　山本智一（兵庫教育大学）
副委員長　川上　貴（宇都宮大学），服部裕一郎（岡山大学）
幹　　事　神山真一（大阪体育大学）
担当理事　瀬戸崎典夫（長崎大学），大谷忠（東京学芸大学）
委　　員　石橋一昴（岡山大学），江草遼平（千葉商科大学），
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），
木村優里（明治学院大学），小泉健輔（群馬大学），
中原久志（大分大学），畠山　久（東京工業大学），
福田博人（岡山理科大学），増田有紀（東京成徳大学），
向　平和（愛媛大学），山中真悟（福山市立大学），山本輝太郎（金沢星稜大学）

2023 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	2023 年 11 月 4 日（土）	終了しました	オンライン開催
若手活性化委員会	2023 年 12 月 9 日（土）	終了しました	九州大学
北陸甲信越支部	2024 年 3 月 9 日（土）	2024 年 1 月 29 日（月）	山梨大学
北関東支部	2024 年 3 月 16 日（土）	2024 年 2 月 5 日（月）	オンライン開催
四国支部	2024 年 6 月 1 日（土）	***	高知大学 （朝倉キャンパス）
中国支部	2024 年 6 月 22 日（土）		島根大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので，ご確認ください．
※右の QR コードより，学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます．
https://jsse.jp/1-3

2023 年度　第３回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部開催）

［テーマ］科学教育研究の理論と実践
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］2024 年３月９日（土）　10：00～16：00（予定）
［会　場］山梨大学教育学部 Y 号館 Y-11・Y-12・Y-13 教室（対面開催）
〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
※今後の新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン開催になる可能性があります．
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます．
参加費は無料です．
［申込先］下記のフォームから発表・参加の申し込みをお願いします．
発表・参加申込：https://forms.gle/cNve8hNFeaP5ERF89
発表申込締切は，2024 年 1 月 29 日（月）です．発表されない場合は，当日参加も可能です．
発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります．発表申込時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします．また，１つの研究会で第１著者として申し込みできるのは，１件です．ご不明な点につきましては，以下の問い合わせ先までご連絡ください．

［問い合わせ先］2023 年度第 3 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員
佐々木智謙・杉山雅俊
E-mail：sasakit(atmark)yamanashi.ac.jp
※アドレスの(atmark)の部分は＠です.
［原稿提出］研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください.
〈 URL： https://jsse.jp/1-3/115-2 〉
研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください.
〈 URL： https://jsse.jp/1-3/125-2 〉
原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，2024 年 2 月 18 日（日）です.
次のウェブサイトから投稿してください.
〈 URL：https://jsse-kenkyukai-form.jp/ 〉
※研究会情報のプルダウンメニューで「北陸甲信越支部」を選んでください.
投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます. このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください．アドレスの（atmark）の部分は＠です．原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります．また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください.
会場のプロジェクター接続端子は HDMI です. 変換コネクタ等は各自でご準備ください.

多数の方々の申込をお待ちしております.

日本科学教育学会　北陸甲信越支部長　谷塚光典（信州大学）

2023 年度　第４回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

［テーマ］今求められる科学教育研究
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］2024 年３月 16 日（土）　９：30～16：30（予定）
［会　場］オンライン開催
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます.
参加費は無料です.
オンライン開催に参加をご希望の方は，2024 年３月 13 日（水）までに「申込み先」まで E-mail でご連絡ください．３月 14 日（木）以降にオンライン開催（試行）の ZOOM URL を直接ご連絡いたします.
なお，研究会当日の録音，録画はご遠慮ください.
［申込先］希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所，使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員：高藤 清美（筑波学院大学）までお送りください.
発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります．発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします.
また，１つの研究会で第１著者として申込みできるのは，１件です.
発表申込締切は，令和６年（2024）２月５日（月）です.

［問い合わせ先］2023 年度第４回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：高藤 清美

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻３－１ 筑波学院大学 経営情報学部

Tel (029-858-4811（代表）)

E-mail：takato(atmark)tsukuba-g.ac.jp（高藤 清美）

※アドレスの(atmark)の部分は＠です.

［原稿提出］研究会研究報告の原稿のテンプレートも学会ホームページをご参照ください.

〈 URL：https://jsse.jp/1-3/125-2 〉

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，令和６年（2024） ２月 25 日（日）です.

次のウェブサイトから投稿してください.

〈 URL：https://jsse-kenkyukai-form.jp/ 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「北関東支部」を選んでください.

投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます. このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください．アドレスの(atmark)の部分は＠です.

原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります. また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください.

多数の方々の申込をお待ちしております.

日本科学教育学会　北関東支部長　高藤清美（筑波学院大学）

2023 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）
開催報告

2023 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催　英語による研究会）を 2023 年 11 月 4 日（土）にオンライン（Zoom 利用）で開催しました．昨年と同じ土曜日午前の開催でしたが，35 名の方にご参加いただきました．

昨年に引き続き，海外の研究者 2 名によるゲストトークと一般発表で構成しました．ゲストトークでは, University of New Brunswick の David Wagner 教授と The University of British Columbia の David Anderson 教授にご登壇いただきました．

Wagner 教授には，数学教育の視点から，学生にとって数学はどのような意義をもつ科目なのか，国際比較データをもとに，ご講演いただきました．Anderson 教授には，国際的な質的研究の事例を中心にご講演いただき，具体的な質的研究手法の開発の実情について議論する機会となりました．

一般発表では，11 件の英語による発表があり，3 つのブレイクアウトルームに分かれて活発な議論がなされました．英語発表の機会を支援する観点から，座長が適宜日本語で補うなど，和やかに発表が行なわれました．また，多くの留学生にもご参加いただき，国際的な視点で科学教育の課題を議論する貴重な機会となりました．

アンケート結果も非常に好評であり，運営組織の国際化など，今後に向けたポジティブなご意見もいただきました．こうしたご意見は，国際交流委員会として，学会の国際化を牽引する視点から今後検討していきたいと考えております．

最後になりましたが，今回の研究会の開催にあたりご協力いただきました支部研究会の理事の皆様，隅田会長，清水副会長，そして発表者・参加者の皆様に感謝申し上げます．

担当：土佐幸子（新潟大学）

国際学会参加報告(70)

World Association of Lesson Studies 2023 (WALS2023)

World Association of Lesson Studies （WALS）の年次会が 2023 年 11 月 26 日から 29 日までオランダのズヴォレで開催された．WALS は授業研究に携わる世界の研究者と教員及び教育関係者が集うことを目的として 2007 年に設立された学会である．オランダでの開催は2019年のアムステルダムに続いて２回目である．ズヴォレはアムステルダムから鉄道で１時間ほど東に行ったところにあり，中心部は星形の堀に囲まれ，中世の雰囲気が色濃く漂う都市である（図１）．そのズヴォレに約 400 人の教育関係者が集まり，日本に端を発する授業研究（レッスンスタディ）について，研究成果や実践報告が熱く語られた．参加国は 29 か国に及ぶ．日本からの参加者が一番多く約 70 人，次がカザフスタン，３番目が開催国のオランダである(図２)．

「Let’s Talk」を大会テーマとして，学会開催中に１人でも多くの人と話そうという呼びかけが開会式でなされた．大会アプリが開設され，参加者の名札にある QR コードをアプリで撮影するとつながれる機能まで含まれていて，大会委員会の本気度がうかがわれる．

授業研究というと，指導案や授業実践そのものに焦点を当てる場合が多いが，今回の大会では大会テーマに合わせて，グループによる対話が大きく取り上げられていた．開会の基調講演はケンブリッジ大学の Mercer 教授による「What can we learn from observing talk」と題するものである． ３つの型の Talk のうち Exploratory talk という批判的に参加者が互いに思考を深める対話に，授業中の子どもの対話やレッスンスタディの教員の会話をもっていこうという主張が展開された（図３）．

図１：WALS2023 の案内
（WALS の HP より https://www.walsnet.org/2023/）

図２：国別参加者数（WALS2023 開会式）

図３：Mercer 教授による基調講演（WALS2023）

授業研究は，多くの国において新しい教員研修形態なので，授業研究に関する世界的な研究はまだ初期の段階と言えるのかもしれない．その中で興味深いのは，日本の教師や研究者が当たり前と思い，あまり研究対象として取り上げなかったことが，海外の教師や研究者の目には新鮮で画期的な手法と映ることである．その良い例の１つは板書である．もちろん日本の教員にとっても，子どもの考えを促すような効果的な板書とはどのようなものかは，注意深く準備されたり配慮されたりするものであるが，板書に注意を払うという伝統がなかった国の教員にとって，板書を活用して学習者の思考を可視化するというのは驚きと捉えられる．筆者がディスカッサントとして参加したグループトークでは，授業における板書の利用だけでなく，現職教員や教員志望学生が授業研究の過程において板書を活用する例が報告された（図４）．さらに最近の日本の授業におけるモニターと板書の併用に関する教育効果の分析も報告された．

図４：理科の板書についての発表（WALS2023）

次の WALS は 2024 年 9 月にカザフスタンで開催される．今回の大会では一般発表やポスターセッションも非常に関心が高く，深い内容について議論が交わされたが，その要因の一つにカザフスタンの参加者の熱心さがあるように思われる．国を挙げて教育改革に取り組んでいるカザフスタンの大会が今から楽しみである．

（土佐幸子・新潟大学）

国際学会開催情報

2024 年

2024 ASTE Annual Conference

開催地：New Orleans, LA, USA

期間：2024 年 1 月 10 日-1 月 13 日

https://theaste.org/meeting/callforproposals/

ICMI Study 26: Advances in Geometry Education

開催地：Reims, France

期間：2024 年 4 月 23 日-4 月 26 日

https://icmistudy26.sciencesconf.org/

International Science Education Conference 2024

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 24 日-6 月 26 日

発表エントリー締切り：2023年12月28日

https://isec2024singapore.org/

International STEM EDUCATION Conference 2024 Singapore

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 26 日-6 月 28 日

発表エントリー締切り：2023年12月28日

https://istem-ed2024singapore.org/

The 15th International Congress on Mathematics Education (ICME-15)

開催地：Sydney, Australia

期間：2024 年 7 月 7 日-7 月 14 日

https://icme15.org/

The 18th Asia-Pacific Conference on Giftedness (APCG)

開催地：香川県，日本

期間：2024 年 8 月 17 日-8 月 20 日

発表エントリー締切り：2024年4月1日

https://apcg-japan2024.org/

The Asian Association for Biology Education 2024 (AABE 2024)

会議テーマ：グローバル・ウェルビーイングへの展望：教科等横断型学習における生物教育

開催地：愛媛大学 城北キャンパス, 愛媛県, 日本

期間：2024 年 10 月 12 日-10 月 15 日（10 月 16 日に有料エクスカーションを実施）

https://www.aabe2024.com/

備考：大会中に中高生の生徒によるポスターセッションを開催予定

2023 年日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）概要報告

2023年12月9日（土）に，若手活性化委員会担当の研究会を九州大学およびオンライン形式で開催しました．この研究会は，『科学教育研究』の若手会員を対象とした特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」（通称：若手特集）とタイアップしています．なお，詳細の報告については次号以降で行います．

１．研究会概要

（１）研究発表

研究発表は対面ポスター（九州大学）とオンデマンド（Slack使用）で行いました．本研究会で研究発表を行うことで，『科学教育研究』若手特集に論文を投稿する条件の一部を満たすことができます．さらに，オンデマンド発表を含む本研究会当日の発表の中から，優秀な研究発表に対しては「ベストプレゼンテーション賞」を授与しています．

また今年度の新たな取り組みとして，「参加者バッジ」をポスター発表で利用しました．これは，発表者の気持ちをバッジで表現することにより，質疑応答のきっかけになればと思い，導入しました．発表者や参加者からは，「いつもなら質疑応答の時にドキドキするが，事前に自分の心持ちを表すことができるのは良かった」，「バッジを見て初参加が自分だけではなく安心した」といったお言葉をいただきました．今後，より多くの方に研究会等に参加し活発な議論をしていただくためにも，新たな取り組みを導入していきたいと思います．

参加者バッジ

ポスター発表の様子

（２）企画

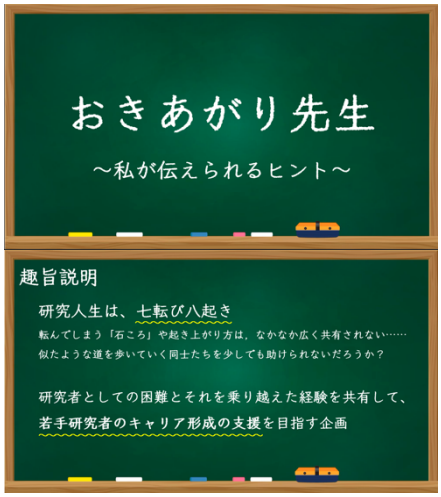
テーマ「おきあがり先生～私が伝えられるヒント～」として企画を実施しました．本企画では，登壇者の先生方からそれぞれ転んで起き上がった経験を話題提供していただき，それぞれのライフステージで遭遇する困難とその乗り越えた経験を共有しました．

【テーマおよび登壇者】

『大学院生って大変』	中野ひかる	先生（島根大学大学院）
『大学院生って大変』	箕矢明音	先生（島根大学大学院）
『リジェクトって大変』	山口悦司	先生（神戸大学）
『現場で研究するのって大変』	倉元賢一	先生（第一工科大学）
『研究者になるって大変』	小野寺かれん	先生（京都光華女子大学）
『研究者になってからも大変』	川崎弘作	先生（岡山大学）

＜司会・進行＞

・岡本紗知先生，舟橋友香先生（若手活性化委員）



実施した企画の様子

２．その他

情報は，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております．どうぞご期待下さい．

Facebookページやメーリングリストの登録は，随時，受け付けています．ぜひご登録ください．

◯若手活性化委員会 Facebook

https://www.facebook.com/jssewakate/

◯JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

https://goo.gl/tClQb4

（大阪教育大学：岡部舞）

若手研究者，「初心」を語る

国際学会参加報告

桐蔭横浜大学・峰野宏祐

参加学会：The 21st International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications

The 21st International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications (数学的モデリング・応用の指導の国際会議，ICTMA21) が，2023年9月10日～15日に淡路夢舞台国際会議場（兵庫）にて開催されました．

ICTMA21は，1985年にイギリスで開催されてから隔年で開催され，今回は21回目を数えます．世界各国から約200名ほどの研究者が集まり，数学的モデリング・応用に関わる研究発表および国際交流を行っています．今回は池田敏和先生（横浜国立大学教授）をチェアに，日本での初めての開催となりました．

国際学会というと，私の個人的な印象は約１週間ほどかけてセッションを行い，かつレセプションパーティーやエクスカージョンなどイベントも盛りだくさん，というものですが，加えてICTMAという会はカンファレンスディナーで必ず，少なくとも私が参加した過去3回は必ず参加者が音楽に合わせてみんなで踊り出す，非常にアットホームな会（正しい形容かわかりませんが）です．今回会議についても，初日のEarly Career Researcher DayではGabriele Kaiser先生やŞerife Sevinç先生，Gloria Stillman先生といった，モデリング研究を代表する先生方によるご講演を受け，国内外たくさんの先生方が意見を交わしました．続くweek dayでは，Plenary Lectureでは日本からは筑波大学の清水美憲先生もご講演をされ，その他Special LectureやPoster Session といった研究協議の機会，京都や姫路へのExcusionと，たくさんの交流・議論の場が展開されました．規模が大きくない分，活発で密な交流機会があったように思います．

さて，私にとってICTMAは特別な思いがあります．というのも，私が大学院生のとき，数学教育研究に触れてはじめて参加した国際学会（2009, ハンブルグ）であり，現在の自身の研究領域である数学的モデリング研究を始めるきっかけをつくってくれた学会であるためです．日本開催が決まったとき，一研究者としてこの学会になんらかの形で貢献することが，1つの大きな目標でした．今回，微力ではありましたがLOCとして準備段階から関わり，かつ研究発表ができたことは，個人的に大きな成果でした．

ここからは，具体的にどのように学会期間を過ごしたかについて，「参加者として」「運営側として」の両面から述べたいと思います．

参加者としては，私は初日の Early Career Researcher Day から参加し，初日に口頭発表，（1 回横浜に帰って大学で講義），そして毎日のセッションや講演に参加しました．口頭発表は，大変悔いの残るものでした．英語の不得手な私は，会場の先生のご支援を受けてやっと質疑に答えることができる状況だった…ことはさておき（会場の先生方に厚く感謝申し上げます．次回開催のときに「英語上手になったね」と言われるようになることを，1 つの目標にしようと思います），日本語の発表であればニュアンスや，表情を見て言葉を重ねるなどしてなんとなく通じることが，英語ではごまかしが効かず，即ち自身の研究が論としていかに精緻であるかがより一層求められることを痛感したためです．これは自身にとって大きな収穫であり，かつ反省でもありました．

運営サイドとしては，主にプログラム班として Conference Booklet の原稿の作成，Certificate の作成をメインに行い，加えて当日のセッション会場の支援や受付の手伝い等を行ないました．とにかくやるべ

きことをこなすので精一杯，という感じで，もっと仕事すべきところもたくさんあったかと思います…（皆様，申し訳ないです）．Conference Booklet では，会場図等を作成しましたが，英語を文面で文章として書くことはあっても，広告的にシンプルな表現で書いたりすることはなかったので，ここでもまた英語の壁にぶつかった気がします．これもある種のモデリングでしょうか．当日の仕事では，大学生・大学院生の方々の素晴らしい働きぶりにくっつきながら，お弁当の配布や案内をしましたが，海外の方にそんなに緑茶が好まれなかったことには少しばかりショックを受けました．というのは冗談ですが，学会運営はたくさんの方々のご尽力によって成り立っているんだなと，あらためて思わされました．

しばらく学校現場で研究を続けていた身としては，研究は「継続する」ということが一番大変なことであることを痛感しています．そのときに，コミュニティの存在はとても大きなもので，私にとっての ICTMA はまさにそのような存在です．今回は対面開催ということで，実際に淡路島で海外の同じ研究課題を持つ先生方や，気心の知れた仲間と共に 1 週間を過ごせたことは，大きいものでした．研究が進む原動力の 1 つはお酒を酌み交わす…だけではなく，人との交流や普段と異なる場所で感じたこと，考えたことを共有することが源泉にあると，改めて思いました．これからもそういったコミュニティがつくれるよう，教育・研究活動に取り組んでいきたいと思います．そして，ICTMA n (n<40)くらいを再び日本に招致できるよう，邁進していきたい次第です．

学会会場の風景

編集委員会だより

2023 年度第 1 回編集理事会報告

2023 年度第 1 回編集理事会は，2023 年 11 月 7 日（火）に，オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された．まず，第 48 巻の巻頭言の執筆候補者が決定された．続いて，特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2023 年 12 月発刊予定）」（第 47 巻，第 4 号）の編集状況，特集「ウィズコロナ社会に求められる新しい科学教育の挑戦（2024 年 6 月発刊予定）」（第 48 巻，第 2 号）の編集状況，特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）の準備状況，「科学教育研究」全体の編集状況，EBSCOhost データベース契約における弁護士相談の実施状況，第 47 回年会（愛媛大会）における編集委員会企画ミーティングの実施状況などが報告された．

次回の編集理事会は，2024 年 3 月に，遠隔会議での開催を予定している．

特集のお知らせ（再掲）

編集委員会では，若手活性化委員会と連携し，下記の主旨で「科学教育研究」第 48 巻第 4 号での特集を企画します．研究論文，総説・展望，資料，プラザ，全ての種別の原稿を募集いたします．ふるってご投稿のほどお願い申し上げます．

なお，投稿規程により，「科学教育研究」への投稿論文は，筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります．また，この特集には投稿条件が設定されています．その点ご注意ください．

編集委員長　青山和裕
特集編集部会長　小松孝太郎
若手活性化委員会委員長　山本輝太郎

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として，また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として，若手会員を対象とした特集（以下，若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが 2017 年に始まった．2023 年で 7 回目となる．これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し，『科学教育研究』第 42～46 巻各第 4 号に，多くの若手会員の研究成果を掲載してきた．2023 年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と，研究成果の公表機会の提供を行う．

前々回の 2021 年の若手特集では，これまでの若手特集の実施体制をより持続可能な仕方で「進化」させるために，新しい組織編成を行った．今回の 2023 年の若手特集では，これを継承しつつ，次のように組織を編成する．(1) 若手活性化委員会の下部組織として，サブミッション・アドバイザリーボードを設置する．(2) 特集編集部会は，過去の若手活性化委員会構成員および後述の若手特集の投稿条件 (1) を満たす会員を中心に組織する．

1 点目について，若手活性化委員会のサブミッション・アドバイザリーボードは，若手特集への投稿希望者や投稿するかどうかを思案している若手会員への助言を組織的に実施するものである．若手活性化委員会の構成員がサブミッション・アドバイザリーボードの構成員となることで，若手特集に関わる 3 点の取り組み，1 : 若手会員の研究会発表時に論文投稿に向けた建設的なコメントを行うこと，2 : 論文投稿に向けた若手会員からの相談を受けること，3 : 本特集への論文投稿を促進すること，をより一層充実させることをねらっている．若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザリーボードを設置するという前々回からの新しい試みによって，若手会員の研究活動をこれまで以上に支援することを意図している．2 点目は，サブミッション・アドバイザリーボードにおける助言者と若手特集における査読者の重複を避けつつ，若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とすることに加えて，若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげる方策である．

なお，若手特集への投稿条件は，今回の 2023 年の若手特集においても，これまでの若手特集における投稿条件を継承する．若手会員への支援を積極的に提供するために，若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定 : 2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））での研究発表が若手特集の投稿条件となっている．また，研究会での研究発表だけでなく，筆頭著者が「若手」であることも投稿条件である．日本学術振興会は令和 3 年度科学研究費助成事業への公募から若手研究への応募資格を博士学位取得後 8 年未満の研究者のみに変更したが，若手特集はこれに準じない．学位をもたない 40 歳以上の会員であっても，学籍を有していれば若手特集への投稿資格を有する．本若手特集は，より重要性の増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり，そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指す．

特集編集部会の構成メンバー

部会長：小松孝太郎（筑波大学）

副部会長：川崎弘作（岡山大学）

特集編集部会委員：(調整中)

若手活性化委員会　サブミッション・アドバイザリーボードの構成メンバー

山本輝太郎（金沢星稜大学）[委員長]， 標葉靖子（実践女子大学） [副委員長]，長沼祥太郎（九州大学），岡部舞（大阪教育大学） [以上，幹事]，荒谷航平（北海道教育大学），古賀竣也（活水女子大学），下村岳人（島根大学），山崎美穂（帝京大学） ， 岡本紗知（大阪大学）， 大谷洋貴（大妻女子大学）， 中村謙斗（東京理科大学大学院／東京学芸大こども未来研究所）， 森田大輔（第一工科大学）[以上，委員]，舟生日出男（創価大学）[顧問／相談役]，雲財寛（東海大学），舟橋友香（奈良教育大学）[理事] ほか

投稿条件

以下の（1）～（3）の 3 点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます．これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては，一般論文としての査読対象とさせていただきます．あらかじめご承知おきください．

（1）以下の（a），（b），（c）のいずれかを満たす学会員が，投稿論文の筆頭著者となっていること．
（a）投稿締切日時点で，39 歳以下である．
（b）投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．
（c）投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．
（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

（2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））で，筆頭著者として研究発表を行っていること．

（3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること．

事前申込締切：2024 年 2 月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため，事前申込を必須とします．投稿を予定している方は大変お手数ですが，メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし，以下の事前申込内容を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください．

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込
・著者名・所属：
・仮タイトル：
・論文種別：
・E-mail アドレス：
・電話番号：
・連絡先住所：
・投稿条件（1）について：
※満たしている項目の［ ］内に●を記入してください．
［ ］（a）投稿締切日時点で，39 歳以下である．
［ ］（b）投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．

［　］(c) 投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

---（事前申込内容ここまで）

投稿受付開始：2024 年 1 月 1 日
投稿締切： 2024 年 3 月 31 日

＊特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください．
＊投稿論文には，日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします．（執筆要領 4.(2) 参照）
＊査読は，投稿締め切り後に開始します．

発刊予定：2024 年 12 月

投稿論文の取り扱い
　本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文としての査読を継続いたします．

以上

「科学教育研究」編集状況報告

１．新規投稿論文（2023.9.1～2023.10.31）：37 編

【内訳】

和文 36 編（うち，17 編が受付前の体裁チェック中）

英文 1 編

２．査読中論文（2023.10.31 現在）：44 編

【内訳】

体裁チェック中（受付前）：17 編

担当編集委員選出中：8 編

査読者選出中：0 編

査読中（1 回目）：7 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：3 編

改訂稿待ち：8 編

査読中（2 回目）：1 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：0 編

編集委員長による最終判定中：0 編

３．掲載決定論文（2023.9.1～2023.10.31 現在）：12 編

【内訳】

研究論文：11 編

総説・展望：0 編

資料：1 編

プラザ：0 編

【合計】

47-4 号：11 編（通算 19 編）

48-1 号：1 編（通算 1 編）

(2) 投稿状況及び掲載決定

(2023年10月31日　現在)

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数（見なし取り下げを含む）	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	取り下げ
2020年　9月	9	0	30	0	8 (44-4) 0 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		4	0
2020年　10月	15	0	38	0	2 (44-4) 1 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		3	1
2020年　11月	5	0	34	0	4 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2020年　12月	6	0	28	0	2 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		10	0
2021年　1月	8	0	27	0	1 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2021年　2月	4	0	26	0	0 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		2	0
2021年　3月	11	0	23	0	7 (45-2) 0 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		7	0
2021年　4月	14	0	28	0	1 (45-2) 2 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		6	0
2021年　5月	6	0	25	0	0 (45-2) 3 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	2 0		6	0
2021年　6月	4	0	23	0	2 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	0
2021年　7月	8	0	27	0	2 (45-3) 1 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		1	0
2021年　8月	3	0	25	0	0 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	1
2021年　9月	3	0	22	0	0 (45-3) 3 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		3	0
2021年　10月	6	0	18	0	1 (45-4) 2 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		6	1
2021年　11月	13	0	29	0	0 (45-4) 0 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		2	0
2021年　12月	6	0	30	0	2 (46-1) 0 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		3	0
2022年　1月	6	0	24	0	1 (46-1) 2 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		9	0
2022年　2月	5	0	24	0	2 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		3	0
2022年　3月	17	0	29	0	5 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　4月	15	0	38	0	0 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　5月	7	0	40	0	0 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		4	0
2022年　6月	8	0	44	0	1 (46-3) 0 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		3	0
2022年　7月	4	0	31	0	1 (46-3) 7 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		9	0
2022年　8月	11	0	28	0	0 (46-3) 4 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		8	1
2022年　9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		2	0
2022年　10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		6	1
2022年　11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		4	1
2022年　12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		2	0
2023年　1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		9	0
2023年　2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		3	0
2023年　3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	1 (47-2) 0		8	0
2023年　4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	2 (47-2) 0		4	1
2023年　5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	0 0		11	2
2023年　6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	3 0		4	0
2023年　7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	0 0		3	1
2023年　8月	7	0	32	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	0 0		7	0
2023年　9月	4	1	25	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	0 0		5	0
2023年　10月	32	0	44	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	0 0		5	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 265 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 森田裕介（早稲田大） 大貫麻美（白百合女子大）

委　　員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 雲財　寛（東海大）
稲田結美（日本体育大） 黒田友貴（静岡大） 江草遼平（千葉商科大）
増田有紀（東京成徳大） 岡部　舞（大阪教育大）

幹　　事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail：*jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail：*jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会